

2009年6月1日

富士重工業 「自動車リサイクル法」による2008年度再資源化率等の実績を公表

富士重工業は、2005年1月から施行された自動車リサイクル法（使用済自動車の再資源化等に関する法律）に基づく2008年度（2008年4月～2009年3月）における再資源化等の実績を公表します。

2008年度の実績は、シュレッダーダスト^{*1}（以下ASR）では206,048台（31,540.7トン）を回収、24,498.8トンを再資源化しました。よってASR再資源化率は77.7%となり、2015年度法定基準である70%を達成しました。

またエアバッグ類は60,287台を引取り、12,358.5kgをリサイクル施設に投入し、11,666.6kgを再資源化しました。再資源化率は94.4%となり、法定基準の85%を達成しています。

フロン類は154,429台を（46,969.5kg）を引取り、適正に処理を行いました。

^{*1}使用済自動車から有用資源を回収した後に残る破砕残さ

再資源化等に要した費用は総額1,584,820,651円、資金管理法人から払渡しを受けた預託金は総額1,616,720,404円であり、全体収支は31,899,753円の黒字となりました。

富士重工業では、使用済自動車から発生するASR、エアバッグ類、フロン類の3品目の引取・再資源化が、今後も確実かつ円滑に行われるよう取り組み、高い水準のリサイクル率を安定的に維持することを目指します。

以上

2008年度 自動車リサイクル法に基づく再資源化等の実施状況

1. 対象期間

2008年4月1日～2009年3月31日

2. 法定基準の遵守状況

| | | ASR ※1 | エアバッグ類 |
|----------|----|----------------------------------------------------------------|--------|
| 再資源化率 ※2 | 基準 | 30%以上(2005年度～2009年度) 50%以上(2010年度～2014年度) 70%以上(2015年度～) | 85%以上 |
| | 実績 | 77.7% | 94.4% |

3. 再資源化等の状況

| | | ASR | エアバッグ類 | | フロン類 ※3 | |
|--------|---------------------|-----------|-----------------|------------|---------|------------|
| 引取台数 | 指定引取場所での引取台数 ※4 | 192,199台 | 取外回収台数 | 13,262台 | CFC引取台数 | 25,234台 |
| | 委託全部利用投入解体自動車台数 ※5 | 13,849台 | 車上作動台数 | 46,841台 | HFC引取台数 | 129,195台 |
| | 合計 | 206,048台 | 一部取外回収／一部車上作動台数 | 184台 | | |
| 引取量 | ASR引取重量① | 29,308.9t | 取外回収個数 | 18,038個 | CFC引取重量 | 6,592.5kg |
| | 委託全部利用引渡ASR相当重量② | 2,231.8t | 車上作動個数 | 96,074個 | HFC引取重量 | 40,377.0kg |
| | 合計 | 31,540.7t | 合計 | 114,112個 | 合計 | 46,969.5kg |
| 再資源化重量 | 再資源化施設 ASR投入重量 ③ ※6 | 25,058.3t | 再資源化施設引取重量⑦ | 12,358.5kg | ————— | |
| | 再資源化施設 ASR排出残さ重量④ | 2,754.8t | | | | |
| | 委託全部利用投入 ASR相当重量⑤ | 2,231.8t | 再資源化重量⑧ | 11,666.6kg | | |
| | 委託全部利用排出残さ重量⑥ | 36.5t | | | | |
| | | | | | | |

4. 再資源化等に要した費用の収支状況

| | ASR | エアバッグ類 | フロン類 | 合計 |
|--------------|-----------------|---------------|---------------|-----------------|
| 払渡しを受けた預託金の額 | 1,176,021,202 円 | 109,581,816 円 | 331,117,386 円 | 1,616,720,404 円 |
| 再資源化等に要した費用 | 1,152,927,647 円 | 106,956,965 円 | 324,936,039 円 | 1,584,820,651 円 |
| 収 支 | +23,093,555 円 | +2,624,851 円 | +6,181,347 円 | +31,899,753 円 |

[注記]

※1. ASR (=Automobile Shredder Residue) とは、使用済自動車から有用資源を回収した後に残る破碎残さ。

※2. 再資源化率

$$\text{ASR 再資源化率} = \frac{\left[\begin{array}{c} \text{再資源化施設} \\ \text{ASR 投入重量③} \end{array} \right] - \left[\begin{array}{c} \text{再資源化施設} \\ \text{ASR 排出残さ重量④} \end{array} \right] + \left[\begin{array}{c} \text{委託全部利用} \\ \text{投入 ASR 相当重量⑤} \end{array} \right] - \left[\begin{array}{c} \text{委託全部利用} \\ \text{排出残さ重量⑥} \end{array} \right]}{\left[\begin{array}{c} \text{ASR 引取重量①} \end{array} \right] + \left[\begin{array}{c} \text{委託全部利用引渡 ASR 相当重量②} \end{array} \right]}$$

$$\text{エアバッグ類再資源化率} = \frac{\left[\begin{array}{c} \text{エアバッグ類再資源化重量⑧} \end{array} \right]}{\left[\begin{array}{c} \text{エアバッグ類再資源化施設引取重量⑦} \end{array} \right]}$$

※3. CFC (=特定フロン CFC12)・HFC (=代替フロン HFC134a) はともにカーエアコン用冷媒。富士重工業は 1994 年までに CFC からオゾン層に害のない HFC に切替えを完了したが、HFC も地球温暖化には影響があるとされており、自動車リサイクル法に基づく引取・破壊を実施している。

※4. 指定引取場所とは、主務大臣の認定を受けて定めた引取場所のこと。

※5. 主務大臣の認定を取得した全部再資源化業務委託先（解体事業者、プレス・せん断処理業者）が国内の電炉・転炉等に引渡しを行う場合に、その引渡先は委託全部利用となる。

※6. 再資源化施設とは、主務大臣の認定を取得した指定引取場所のうち、基準に適合した施設を示す。